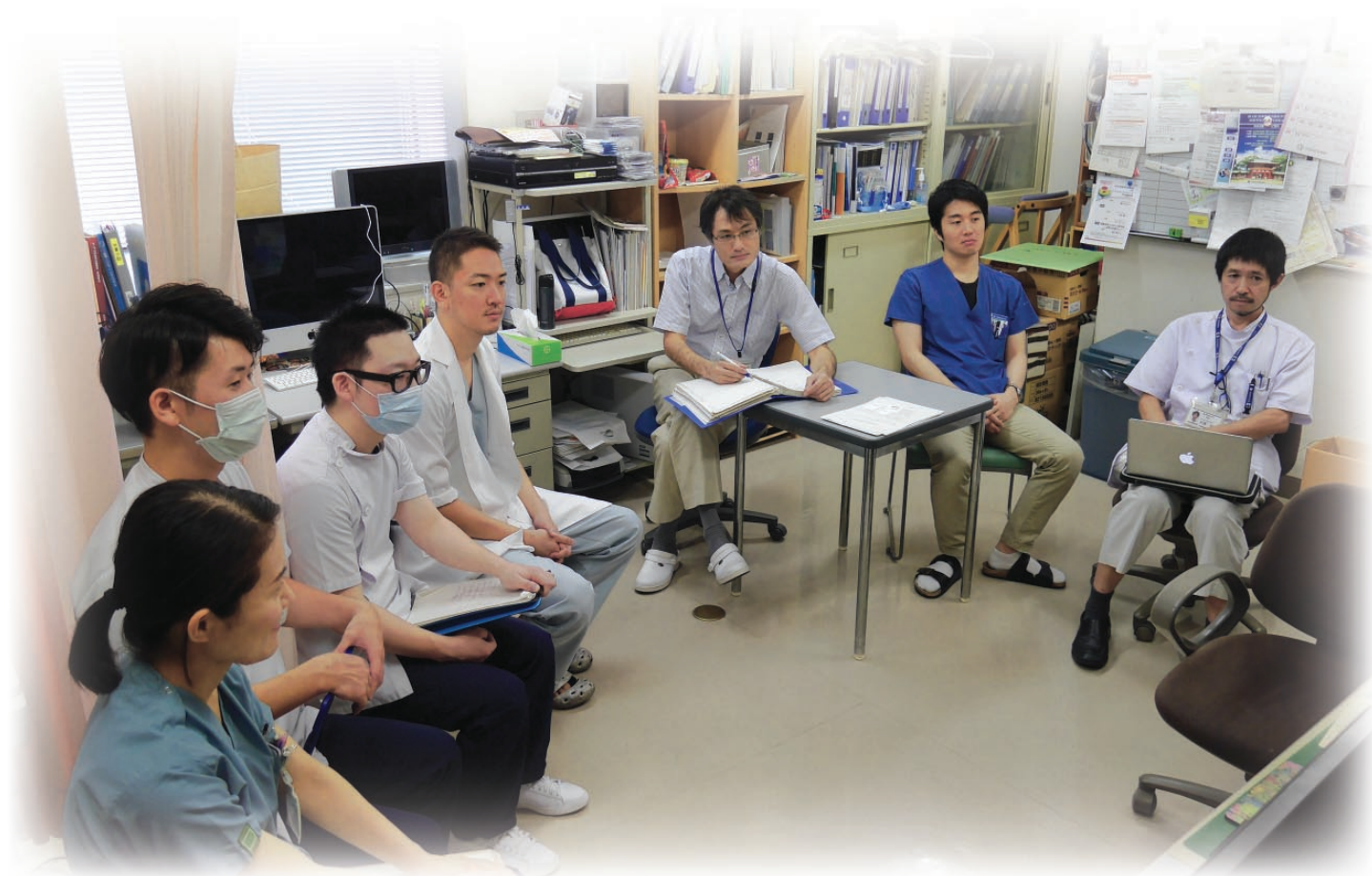


町田市民病院

vol.34
2017年 夏号

クォーターリー



広報紙をリニューアルしました！

今回からページを倍増し、横書きにしました。
みなさんが読みやすい広報紙を目指します。



トピックス

- 診療科紹介
脳神経内科・脳神経外科
- 特集
退院支援
- 新任医師紹介
- 楽笑レシピ

<http://machida-city-hospital-tokyo.jp/>



脳神経内科・脳神経外科

町田市唯一の公的二次医療機関として、脳神経内科・脳神経外科で連携し、脳神経疾患の救急医療に対応しています。

脳神経内科部長 **おおつか 大塚** **よしのぶ 快信**・脳神経外科部長 **ふるや 古屋** **ゆう 優**



大塚医師(左)・古屋医師(右)

●脳神経内科と脳神経外科の違い

脳梗塞や脳出血など、同じような疾患を対象としていますが、大きく分けると手術が必要な場合や外傷は脳神経外科、内科的治療やカテーテル治療を行う場合は脳神経内科が対応します。頭痛やめまい、ふらつきなどの症状があり、どちらにかかっているかわからない場合は、まず脳神経内科を受診していただければ幸いです。診断の結果、脳神経外科での治療が必要な場合は脳神経外科に紹介し、精神科等その他の科の領域の場合には、他科を紹介しています。当院では、抑うつなどの気分の変化や統合失調症など精神的な症状、認知症については、精神科が担当しています。

●連携体制について

日中の救急や夜間の当直等は、2科で分担・協力しています。同じような症状を訴える患者さんがいらした場合は、主な病気については、どちらの科が診ても診療方針に大きな差が出ないように、クリニカルパス（診療計画表）などを用いながら診療を行っています。また、脳神経外科が受けた患者さんも、末梢神経障害やギラ

ンバレー症候群、免疫性神経疾患など、内科的治療を行うべきものは脳神経内科に、脳神経内科で受けた患者さんに腫瘍が見つかった場合などは脳神経外科に引き継ぎをしており、常に協力体制をとっています。

当直等を分担して一緒に行っているため、入院患者さんの情報はお互いに把握しておく必要があります。毎週定期的に2科合同の症例検討会を行い、全ての入院患者さんについて情報共有するほか、内科的・外科的治療を含め、患者さんにとって最善の治療を選択するよう治療方針を相談しています。また、日常的に近くにいるため、平日頃から患者さんの情報は共有し、気軽に相談する体制ができています。

●みなさんに伝えたいこと

動脈硬化が進行している人が増えているように感じ、脳卒中や心血管疾患の予備軍となることが心配されます。健康診断を定期的に受け、肉ばかり食べない、油ものやお酒をひかえる、定期的に運動をするなど、生活習慣に気を付けていただきたいと思います。



症例検討会の様子

脳神経内科

何科を受診すればいいのか迷った時、
どこの病気が診断するのが我々の仕事



脳神経内科部長
大塚 快信

●脳神経内科とは…

脳や脊髄、神経の病気をみる内科です。体を動かしたり、触れたときに感触を得たり、考えたり覚えたりすることがうまくできなくなった時に、このような病気を疑います。受診を考える症状としては、頭痛やしびれ、めまい、うまく力が入らない（脱力）、歩きにくい、ふらつき、しゃべりにくい、むせる、物が二重に見える、けいれん、意識障害など多岐にわたります。

●代表的な病気

●頭痛

片頭痛や緊張型頭痛の場合が多いですが、生命に関わる重篤な病気がないかどうか、必要に応じて脳CTやMRIによる検査を行い、重篤な病気の除外をはかっています。

●脳血管障害（脳卒中）

脳の血管が突然詰まる（脳梗塞）、切れる（脳出血）、脳の血管にできたこぶが破れて出血する（くも膜下出血）の3つに大きく分けられます。いずれも緊急治療が必要な病気で、手術を必要としない場合は当科で治療し、手術が必要な場合は脳神経外科が担当します。

●てんかん

脳の一部の構造的な異常により、そこが異常な電気信号を発することで、けいれん、

脱力、意識障害等の症状を繰り返す病気です。MRIなどの画像検査による構造的な異常の有無、脳波による異常な電気信号の有無を調べることなどにより診断します。抗てんかん薬による治療のほか、脳腫瘍などが原因となって生じている場合もあるため、手術を含めた外科的治療の可能性を検討し、脳神経外科へ紹介することがあります。

●パーキンソン病

脳の中で、ドパミンを作る神経が減っていき、ドパミンが欠乏することで、表情が乏しい、動作が遅くなる、手足が硬くなる、手が震える、手足が動かしにくくなる、転びやすくなるなどの症状を呈する病気です。今の医学水準では、一旦発症すると完全に治すことは困難ですが、薬による治療で症状を和らげ日常生活を楽に送れるようにすることも可能になってきています。

●患者さんへのメッセージ

前述の受診を考える症状が出た場合、何科を受診すればいいかわからない場合も多いかと思いますが、その症状が体のどこの病気が診断するのが我々脳神経内科の仕事です。診断のうえ、他科の受診が必要な場合は脳神経外科や整形外科、精神科、内科など専門の科を紹介しますので、お気軽に受診してください。



大塚医師(左)・水上医師(右)

脳神経外科

近隣の医療機関との連携・役割分担により、地域の中核病院として、緊急かつ重症疾患に対応

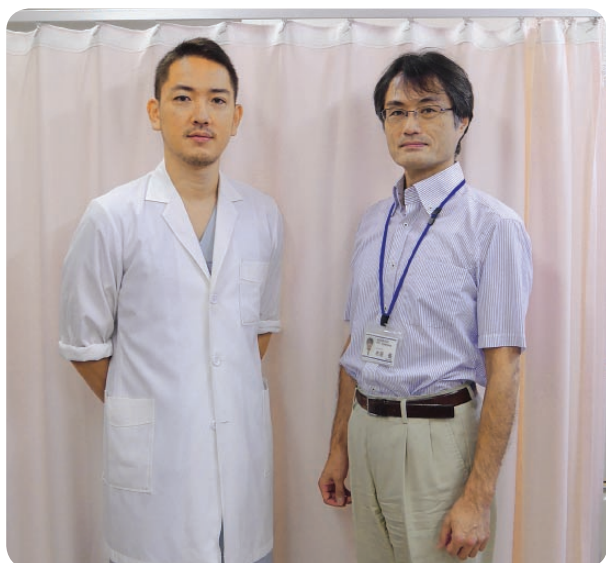


脳神経外科部長
古屋 優

●脳神経外科とは…

脳神経外科の扱う疾患は手術治療を必要とする中枢神経疾患が中心です。頭部外傷による外傷性頭蓋内出血、脳血管障害による頭蓋内出血、脳腫瘍などが一般的で皆さんすぐに思いつくことと思います。地域の中核病院として、脳神経外科では緊急かつ重傷疾患の対応がとれるように努力しています。さらに軽症頭部外傷、脳虚血性疾患、てんかんのよう手術治療を必要としない外傷・中枢神経疾患の治療も担当しています。

脳神経外科は、外来患者を日に25名、新規入院患者を月に30～35名受け入れ、入院患者を



小林医師(左)・古屋医師(右)

日々15～30名受け持ち、年間150件以上の手術を行っています。さらに夜間・休日の神経救急当直を脳神経内科と分担し月に12日間担当しています。この12日以外でも、脳神経外科緊急症例が当院に搬送されればオンコール（緊急呼び出し）として対応しています。この診療体制を常勤の脳神経外科専門医2名体制で維持するためには、軽症時の不要な受診を避けていただくことが必要であることをご理解いただきたいと思います。

●まずはかかりつけ医にご相談

脳神経外科と聞くと一般的に頭をぶつけたときにかかるイメージをお持ちでしょう。子供の頃によく両親や大人から「頭は大事だから」とか、「たんこぶができなかつたら危ない」とか、聞いたことがあると思います。そのため、軽傷であっても当院へ受診される方が多いのが現状です。不安だから、念のためになどの理由での受診は避け、まずはかかりつけ医、救急電話相談などを活用していただき、必要な場合に当院へ受診することをお願いいたします。

●緊急を要する症状

明らかに症状が出ているにもかかわらず、様子を見ていて受診が遅れる方もいらっしゃいます。脳梗塞の場合、発症から数時間以内であれば、薬物やカテーテル治療により症状の改善、軽減が期待できる場合もあります。顔が半分動かずゆがんでしまう、文章のオウム返しができない、両手を持ち上げると片側が下がってしまい、上げた状態を保持できないなどのどれか一つでも当てはまれば70%以上の確率で脳梗塞などの脳血管障害（いわゆる脳卒中）を発症しているサインですので、すぐに最寄りの医療機関を受診すること、必要に応じて救急車を要請することが大切です。



特集：退院支援

2017年4月から看護師4名と社会福祉士1名の5名からなる退院支援調整職員を配置しました。急性期の治療が終了したのち安心して退院し、住み慣れた地域で療養生活を継続できるよう、入院早期より退院支援をさせていただきます。



退院支援調整職員

前列：廣岡・伊藤 後列：小林・信岡・早川

あなたの退院を支えるほっと♪ステーション 在宅へのバトンをしっかりとつないでまいります

入院中の患者さんの中には、退院日が近づくと退院後の生活について不安を抱く方が多くいらっしゃいます。退院支援看護師は、みなさんの退院後の生活に関する不安と一緒に考え、解決しながら、退院したその日から安心して生活していただけるよう“病院での治療”から“在

宅での療養”へのバトンの受け渡しをお手伝いします。そのため、入院早期に患者さんの状況を伺い、ご本人やご家族の思いを尊重しながら、安心して退院いただける計画を医師や看護師を含めた医療者間で検討していきます。また、患者さんの中で要介護認定を受けている方については、入院前のことをご存知のケアマネジャーさんと、退院に向けての話し合いを積極的に行っていきます。介護保険の認定等をまだ受けていない方についても、必要に応じて介護保険の認定申請のアドバイスなどをさせていただきます。

退院後の生活に不安をお持ちの方は、退院支援看護師が丁寧にご説明いたしますので、いつでもご相談ください。



病棟での医療者間ミーティングの様子

切れ目のない支援を目指して 地域との連携をとっています



入退院調整担当師長
平田 真由美

4月から入退院調整担当師長になりました。認知症看護認定看護師としても病院内を横断的に活動し、認知症をお持ちの患者さんが、安心できる療養環境を提供できるように関わらせていただいております。

退院支援調整職員とともに、入院中の患者さんご家族が安心できる退院支援体制を目指し、地域との連携を密にとりながら切れ目のない支援を提供して参ります。

新任医師紹介



新しく仲間になりました常勤医師をご紹介します。

これからどうぞよろしくお願いたします。

①出身大学・卒年 ②趣味 ③メッセージ



消化器内科

石川 将史
(いしかわ まさし)

- ①聖マリアンナ医科大・2013年
- ②旅行
- ③丁寧な医療を心掛けて、町田市のため精一杯努力致します。



消化器内科

澁谷 尚希
(しぶや なおき)

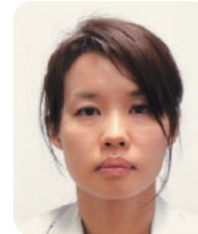
- ①東京慈恵会医科大・2013年
- ②映画鑑賞
- ③町田市の医療に貢献できるよう一生懸命働いていきたいと思ひます。



消化器内科

鈴木 英祐
(すずき えいすけ)

- ①帝京大・2014年
- ②散歩、スポーツ
- ③より良い医療の提供・健康予防の推進に努めます。



糖尿病・内分泌内科

細川 紗帆
(ほそかわ さほ)

- ①浜松医科大・2009年
- ②ライブ、掃除
- ③分かり易い診療を心がけています。宜しくお願いします。



外科

橋爪 良輔
(はしづめ りょうすけ)

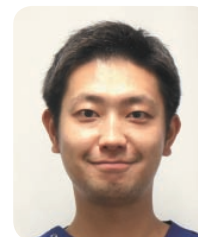
- ①東京慈恵会医科大・2008年
- ②サッカー
- ③町田市の医療に貢献できるよう頑張っていきたいと思ひます。



外科

杉原 哲郎
(すぎはら てつろう)

- ①東京慈恵会医科大・2012年
- ②車
- ③町田市の皆さまのお役に立てるよう頑張ります。



外科

石川 佳孝
(いしかわ よしたか)

- ①東京慈恵会医科大・2013年
- ②ゴルフ、酒
- ③患者さんの事を第一に考えて診療を行っていきます。



外科

原田 愛倫子
(はらだ えりこ)

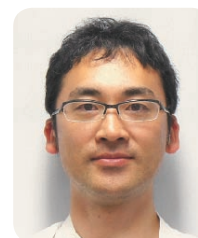
- ①聖マリアンナ医科大・2015年
- ②猫カフェ、映画鑑賞
- ③患者・町田市民の皆様によりよい医療を提供したいと思ひます。



心臓血管外科

木下 亮二
(きのした りょうじ)

- ①東京医科歯科大・2011年
- ②ギター、パソコン、読書
- ③町田市の循環器診療のため、最大限尽力致します。



整形外科

寺澤 昌一朗
(てらさわ しょういちろう)

- ①自治医科大・2006年
- ②子供と遊ぶこと、旅行
- ③骨粗鬆症の治療やロコモの予防で健康寿命を延ばしましょう。



整形外科

宗重 響子
(むねしげ きょうこ)

- ①北里大・2013年
- ②スポーツ
- ③よりよい生活がおくれるよう患者さんの痛みと向き合っていきます。



整形外科

松本 光圭
(まつもと みつよし)

- ①北里大・2014年
- ②ゴルフ
- ③一緒に痛みやケガを治していきたいと思います。



精神科

堀地 彩奈
(ほっち あやな)

- ①東京慈恵会医科大・2013年
- ②野球観戦
- ③町田市に貢献できるようがんばります。よろしくお願致します。



小児科

白根 正一郎
(しらね しょういちろう)

- ①千葉大・2012年
- ②ドライブ、野球、ゴルフ
- ③町田市の子ども達が健やかに過ごせるよう、尽力致します。



小児科

古河 賢太郎
(こがわ けんたろう)

- ①東京慈恵会医科大・2013年
- ②スポーツ、旅行
- ③子ども達の為に精一杯頑張りますのでよろしくお願致します。



小児科

小林 亮太
(こばやし りょうた)

- ①東京慈恵会医科大・2013年
- ②テニス、スポーツ観戦
- ③子どもに寄り添った医療を提供できるように頑張ります。



皮膚科

貴志 有紗
(きし ありさ)

- ①聖マリアンナ医科大・2014年
- ②旅行、演劇鑑賞
- ③頑張りますので、どうぞよろしくお願致します。



泌尿器科

久金 陽
(ひさかね あきら)

- ①東京慈恵会医科大・2013年
- ②読書
- ③よろしくお願致します。



産婦人科

日向 悠
(ひゅうが はるか)

- ①東京慈恵会医科大・2013年
- ②ヨガ、トレーニング
- ③町田市の女性の方々が安心できるような医療の提供を目指します。

2017年5月25日(木)に 「緩和ケア地域研修・交流会」を 開催しました。



さぬき診療所院長
讃岐 邦太郎 医師



泌尿器科部長
菅谷 真吾 医師

〈医療関係者のみなさまへ〉

研修会の予定は、当院ホームページ内“医療関係者の方へ”においてご案内しています。ぜひご参加ください。

「泌尿器科がんの治療と緩和医療について～泌尿器科がんを知り、病院－在宅医療・介護－緩和ケアの連携を考えます～」をテーマに、さぬき診療所院長の讃岐邦太郎医師と当院の泌尿器科部長菅谷真吾医師による講演を行いました。

讃岐医師からは泌尿器科がんの在宅医療の現状及び当院の緩和ケア病棟との連携について、菅谷医師からは症例数の多い前立腺がんに関する骨転移や治療薬の選択について講演がありました。

地域の関係機関の方々と当院の職員、合わせて138名が参加し、講演後の交流会ではお互いの治療内容や現状について情報共有を行い、積極的な意見交換が行われました。

地域のみなさんが安心して継続した医療を受けられるよう、今後も地域の医療関係者とこのような研修会を開催し、連携を深めてまいります。

数字で見る町田市民病院

■2016年度決算の概要

2016年度の延患者数は前年度に比べて入院は増加し、外来は減少しました。料金収益は入院収益が患者数の増加等により前年度比8.2%増加し、外来収益は高額薬品の院外処方への切り替えや患者数の減少により11.0%減少しました。

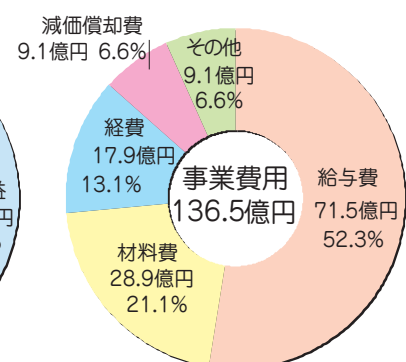
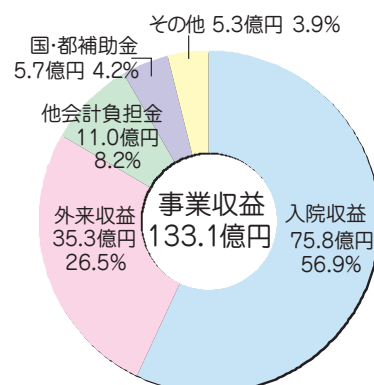
事業収支について、料金収益を主とする医業収益は前年度比0.8%増加しました。対する医業費用のうち、給与費は職員数の増加により1.5%増加、材料費は高額薬品の院外処方への切り替え等により10.5%減少し、医業費用全体では3.7%減少しました。その結果、収益から費用を引いた純損益は3.4億円の赤字となりました。

●利用状況と料金収益

延患者数	2016年度	2015年度	比較
入院	132,207人	124,391人	7,816人
外来	299,773人	310,379人	▲10,606人

料金収益	2016年度	2015年度	比較
入院	75億8290万円	70億517万円	5億7,773万円
外来	35億3,243万円	39億7,110万円	▲4億3,867万円

●病院事業収支



つくって元気！ 楽笑レシピ



しょうがと酢のさっぱりコンビ！
きゅうりとイカの
さっぱり炒め



材料 (2人分)	
◎きゅうり	2本 (160g)
◎いか	1ばい (170g)
◎しょうが	1かけ (20g)
◎ごま油	小さじ2 (8g)
◎酢	大さじ2 (30g)
◎塩	少々 (0.6g)
◎しょうゆ	小さじ1 (6g)
1人分 121 kcal・塩分0.7g	

《作り方》

- ①きゅうりはスティック状、しょうがは千切り、イカは輪切りにする。
- ②熱したフライパンにごま油をひき、しょうが、イカを入れてイカの色が変わるまで炒める。
- ③きゅうり、塩を加え炒め合わせる。
- ④火を止め、酢、しょうゆを加え、なじんだら完成！



ワンポイントアドバイス

イカなどの軟体動物にはタウリンが多く含まれています。タウリンには

- コレステロール低下作用
- 肝臓・心臓機能向上作用
- インスリン分泌作用
- 視力回復作用 があります。

タウリンを一度に吸収できる量は限られているので、日々の食材を考える上で、イカ、タコ、牡蠣、鶏肉など、タウリンの多い食材を上手に取り入れると良いでしょう。



4月10日に東棟9階のレストランがリニューアルオープンしました。新たに窓側にカウンター席を設け、9階からの眺望を楽しみながら食事をお召し上がりいただけるようになりました。

レストラン営業時間

平日 7:30~19:30
土日祝 9:00~17:00



レストラン・カフェ オープンのお知らせ

また、5月8日には1階ロビーにベーカリーカフェがオープンしました。院内で毎日焼き上げる日替わりの焼きたてパンやスープは、その場でお召し上がりいただける他、テイクアウトもご利用いただけます。

院内での休憩などに、ぜひご利用ください。

カフェ営業時間

平日 8:00~18:00
土日祝 8:00~17:00



市民公開講座開催予定

●2017年度 第3回市民公開講座

日時：2017年9月9日(土)
内容：骨粗しょう症と骨折予防
講師：整形外科 石原医師ほか

●2017年度 第4回市民公開講座

日時：2017年11月18日(土)
内容：糖尿病に関すること
講師：内科 伊藤医師ほか



お申し込み方法等の詳細は「広報まちだ」や町田市民病院ホームページにてお知らせいたします。

※日時・内容等は変更になることがあります。



編集・発行：町田市民病院
〒194-0023 東京都町田市旭町2-15-41
TEL：042-722-2230 (代)
<http://machida-city-hospital-tokyo.jp/>